

平成25年度

施策評価マネジメントシート(平成24年度の実績評価)

記入年月日

平成 25 年 7 月 3 日

施策No.	政策名	豊かな心と生きがいを育む教育・文化づくり	主管課	スポーツ振興課	主管課長名	笠倉 剛
304	施策名	生涯スポーツ活動の振興	関係課	健康推進課、学校教育課、生涯学習課		

1. 施策の目的と成果把握

目	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	的	市民	①桜川市人口		見込値			45,122	44,571	44,020	43,469	42,920	41,897
実績値					46,575	45,673	45,105	44,449					
見込値													
実績値													
見込値													
実績値													
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	スポーツを通じて健康で明るい豊かな生活が出来る	①週1回以上スポーツを行っている市民の割合	%	目標値			35.0	38.0	41.0	44.0	47.0	50.0	
実績値				36.3	33.8	33.9	33.1						
②スポーツを通じて健康で明るい生活を送っている市民の割合		%	目標値			74.0	75.5	76.5	78.0	79.0	80.0		
			実績値	66.7	70.3	65.1	65.1						
目標値													
実績値													
成果指標設定の考え方	○スポーツを通じて健康で明るい豊かな生活が出来ているかは、アンケートにより、①「週1回以上スポーツを行っている市民の割合」(実施率)と、②「スポーツを日常的に行っている市民の中で、「スポーツを通じて健康で明るい生活を送っていると答えた市民の割合」において把握する。												
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○スポーツ実施率は、1週間に1回以上(30分程度以上の運動、軽スポーツ含む)スポーツをしている市民の割合(市民アンケートによる)。 ○スポーツ振興課把握による												

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと) ○自分の健康は自分で守るという意識を持ち、地域のスポーツ活動に積極的に参加する。 ○地域のスポーツ活動における指導者として活動する。	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと) ○スタッフの確保や人材育成、スポーツ施設の充実、市民への普及啓発等、市民がスポーツ活動を行いやすい環境を整備する。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか? ○これまではスポーツ振興法に基づき施策を行ってきたが、新たにスポーツ基本法(H23/6/24公布)が制定された。基本法では国民はスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営む権利を有し、スポーツ施策の推進を行政の責務と明確に謳っている。 ○健康志向の高まりにより、特に高齢者層でスポーツをする市民が増えると考えられるが、少子高齢化やスポーツ離れにより若年層で減ると考えられる。 ○体育施設の維持活用などは、新規種目の増加や健康志向などにより、夕方から夜にかけての施設利用が増えているため、地域的に飽和状態であり、効率的な利用が必要となっている。	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ○施設や機器の老朽化が気になるとの意見がある。 ○施設が使いたい時に使えないという(飛び入り)意見がある。(利用者会議で調整はされている。) ○市民アンケートの満足度、優先度調査から、満足度はやや高く、優先度は低くなっている。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
① スポーツをする機会の充実	市民	スポーツに取り組んでもらう	週1回以上スポーツを行っている市民の割合	実績値							
				%	33.8	33.9	33.1				
② スポーツ施設の充実と有効利用	施設	多くの人に快適に利用してもらう	市のスポーツ施設利用者述べ人数	実績値	292,954	183,538	278,747				
				人							
③ スポーツ団体の充実とリーダーの育成	市民	スポーツ団体が充実する	①体育施設利用団体数	実績値	193	198	198				
				団体							
				②指導者数(有資格者)	実績値	178	185	185			
				人							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

項目	単位	23年度実績	24年度実績	25年度予算
①本施策を構成する事務事業の数	件	38		38
②施策事業費(一般財源以外)	千円	9,218		440
③施策事業費(一般財源)	千円	113,638	105,384	115,963
④施策事業費の計(②+③)	千円	122,856	105,384	116,403
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	24,164	30,534	29,974
⑥ 計 (④+⑤)	千円	147,020	135,918	146,377

5. 施策に関連する主要事業等

区分	事務事業名	摘要
主要事業	岩瀬運動公園長寿化事業	今後の施設老朽化の維持管理・改築等に対する交付措置対象事業については、事業計画を策定し計画的な改築・管理等を行うことが計画の目的となるものです。
主要事業	真壁体育館耐震補強事業	大地震が多発する中、体育館の耐震化及び安全確保は重要な課題であるため、復興まちづくり支援事業として平成24年度より実施(耐震、補修)平成24年度～平成26年度総事業費75,720千円(交付対象経費52,234千円・一般23,486千円)
事務事業	総合型地域スポーツクラブ育成事業	H24年度貢献度評価上位、H25年度優先度評価上位

施策番号	304	施策名	生涯スポーツ活動の振興	主管課	スポーツ振興課
------	-----	-----	-------------	-----	---------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	
背景・要因	<p>○スポーツ実施率が21年度36.3%、22年度33.8%、23年度33.9%、24年度33.1%で、やや下降気味となっている。毎日実施している人の割合も14.9%から15%と横ばいだが、非常に熱心な愛好者は根付いているようである。また、スポーツを通じて健康で明るい生活を送っている市民は21年度が66.7%、22年度が70.3%、23年度が65.1%と減少に転じている。これは、東日本大震災後、スポーツは継続して実施しているが、震災が心理に深く影響を及ぼし、明るい生活とまでは思えなかった人がいたため、若干減少したのではないかと考えられる。(高齢化もあるのか?)</p> <p>○スポーツ実施率について地区別にみると、岩瀬地区が33.5%、真壁地区31.7%、大和地区が40.3%となっており、大和地区が高い水準を示している。スポーツを通じて健康で明るい生活を送っている人の割合を地区別にみると、岩瀬地区が63.6%、真壁地区が65%、大和地区が70%となっており、こちらも大和地区が高い数値を示した。</p> <p>○年齢別にみると、「週1回以上スポーツをしている人の割合」では、平成23年度は20代20%、30代21.5%、40代24.1%、50代28.6%、64歳まで41.2%、74歳まで52.7%75歳以上44.4%であった。実施率は50代までが平均より低く、昨年度に比べて横ばい下下がっているが、60歳以上となるほどの年齢層も実施率が伸びている。50代までの数値は、震災による土日出動や節電の影響が考えられるが、20代のスポーツ離れを感じさせる。逆に、退職された方が多い60代以上は勤めの影響がなく、ここ数年力を入れている「総合型スポーツクラブ」などの取り組みが、健康志向と相まって成果が出てきていると考えられる。</p> <p>○スポーツ施設の利用者数は、22年度では292,954人、23年度では183,538人と震災により上半期の間施設を使用できなかった影響により減少したが、24年度は278,747人と、回復傾向にあると思われる。</p> <p>○体育施設利用団体数はH22-193からH24-198になり、指導者数がH22-178人からH24-185人と増えているが、これは市でスポーツ少年団認定指導員講習会を開き指導者を育成する試みや、体育協会・スポーツ少年団の事業を支援、迅速な災害復旧などが、スポーツ団体の充実とリーダー育成に着実に成果として結び付いていると思われる。</p>		

1)②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input checked="" type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った
背景・要因	<p>・週1回以上のスポーツ実施率の目標値38.0%に対して33.1%と4.9ポイント下回っている。3人に1人の割合がやつの状況である。平成22年10月に総合型スポーツクラブ「スマイルクラブ」が設立し、順調な運営を行なっているが、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進していくため、市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつでも、安全にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の整備が必要であると思う。市の体育施設をスマイルクラブに優先的に使用させることで、会員の増加と1年間に一度もスポーツをしない方を生涯スポーツへの活動へ導き、成果が表れると思う。また、スポーツの概念について、施設等で行なうことがスポーツである、といったことだけでなく、ウォーキングやぶらぶら歩き、自宅でのラジオ体操なども含めると、割合は上昇すると思う。</p> <p>・スポーツを通じて健康で明るい生活を送るについては、目標値75.5%に対して65.1%と10.4ポイント下回っている。今後は、生活習慣病にスポーツを取り入れ健康保持について、健康推進課と連携を図ることも視野に入れる。</p>		

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	
背景・要因	<p>・県スポーツ実施率はH24で34.4%、県内市町のH23スポーツ実施率は、水戸市45.4%、ひたちなか市48.8%、牛久市52%守谷市48.1%、下妻市36.8%、城里町34%となっている。桜川市では平成24年度33.1%であり、県平均とほぼ同様となっている。県内都市部では施設が充実していることもあり、ライフスタイルにスポーツを取り入れた市民の割合が多いと思われる。</p> <p>・国全体の実施率は平成21年度は45.3%となっており、桜川市は全国平均よりも低い状況である。</p> <p>・健康づくりのための日頃の運動状況については、アンケートでは33.2%の方が手頃な運動を行ないながら健康管理をしているようであるが、この値はほぼ週1回以上スポーツを行っている市民の割合と同様である。</p> <p>・国のスポーツ基本計画によるスポーツ実施率の目標値(平成24年度)は65%、県の目標値は(平成24年度)50%となっている。</p>		

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか、同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	
背景・特徴	<p>・健康推進課と連携し、健康とスポーツに関する意識の向上に向けた啓発や、生活の中にスポーツを取り入れる住民意識を高める必要があると思う。</p> <p>・総合型スポーツクラブが設立(H22.10)したが、各教室(11)の開催日程が社会人や学生たちが容易に利用しやすい時間帯でないため、スポーツを身近に楽しむことが少々困難である。</p> <p>・運動、スポーツをほとんど行っていない人が45%と高い値となっていることから、これらの人々をどのようにスポーツと関わりを持つことができるのか、で目標値への上昇も期待できる。</p> <p>・市民アンケートの満足度、優先度調査から、満足度はやや高く、優先度はかなり低く、現状維持項目となっている。</p>		

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	<p>・24年度は「スポーツに取り組んでいない人」を重点対象に、「スポーツに取り組んでもらう」「安心安全に利用してもらう」「施設の備品を充実する」「スポーツ活動の中心となる人の育成」を重点意図して事務事業を行った。</p> <p>・事務事業の貢献度評価の結果から、24年度貢献した事務事業は「区体力づくり推進助成事業」「総合型地域スポーツクラブ育成事業」「ウエイトトレーニング講習会事業」「岩瀬温水プール管理運営事業」であった。</p> <p>・「区体力づくり推進助成事業」は、行政区単位の体力づくりと、三世代の交流も含めた地域内活動であるため、子供から高齢者まで、地域内の親睦が図れる事業です。また、活動地域が真壁地区のみであったが、昨年度は岩瀬地区の一部で新規の活動があり、これをきっかけに、大和地区においても事業が拡大するよう区長会などを通じて、周知をしていきたいと思います。</p> <p>・「総合型地域スポーツクラブ育成事業」は、平成22年10月に設立し、現在会員数約160名です。市からの取り組み状況は、体育施設の年間予約を優先に行い、11教室がスムーズに開催できるよう働きかけています。また、昨年度は始めて市民祭でブースを設け、「桜川スマイルクラブ」の各教室やイベント、会員募集のチラシを配布するなど、後方からの支援を行なった。</p> <p>・「ウエイトトレーニング講習会事業」は、トレーニングジムを利用したい人を対象に、安全な利用ができるよう基礎知識や器具の正しい使い方を習得させ週1回以上、スポーツに取り組む人の割合を増やすよう努めている。講習会は年4回開催し、日曜日の午後の部と夜の部を実施している。平成24年度の年間利用者は6,247人、月平均520人となっている。</p> <p>・「岩瀬温水プール管理運営事業」は、年間を通じて安全かつ快適に利用してもらうよう保守管理や監視業務を行っている。小中学校の夏休み期間は、普段、水に慣れていない児童や生徒を対象に夏季教室を開催し、水泳に親しむ機会を増やしていく。(H24度はワンポイントレッスン・H25度はリミック教室・アクアサイズ教室)</p> <p>その他の事務事業では、さくらマラソン大会については、昨年度より、マラソン大会実行委員会を設立し、計画、予算、運営について協議を重ねた。参加費を徴収することで、報償費、需要費、委託料などの経費削減につながるが、更なる安全面の強化やサービスを充実した大会を運営させていきたい。</p>
-------------	--

8. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策全体	<p>・時間的余裕があり年齢的に健康志向が高い高齢者はスポーツ実施率が高いが、20歳代～30歳代の実施率が低く、その実施率を向上させなければならない。また、高齢化社会を迎えるにあたり充実した体制を整えていく必要がある。</p> <p>・住民の満足度は比較的高い、住民のスポーツ活動への意識を向上させ、期待水準を高めていく必要がある。</p> <p>・「遊び」だからこそ、人々に「楽しみ」「喜び」生活に「潤い」を与える</p>	<p>・20歳代～30歳代の実施率を向上させる方策を検討する。高齢化社会を迎えるにあたり充実した体制を整えていく必要がある。</p> <p>・住民のスポーツ活動への意識を向上させるべく、啓発活動を行っていく。</p> <p>・老朽施設の改修・施設整備</p>
基本事業	①スポーツをする機会の充実	<p>・市広報やフェイスブックに募集のみでなく、記事を掲載し情報を提供していく。</p> <p>・健康推進課と連携して、健康面からスポーツに取り組むよう啓発を行う。また、未来PJになっている、総合型地域スポーツクラブへの健康推進課との連携を行っている。</p> <p>・マラソン大会、親子の部の充実化、スマイルクラブで親子教室(幼児)を行い、20歳代～30歳代のスポーツ啓発の一環とする。ここでスポーツに対しての下地をつくり、小学校に入学したらスポーツ少年団に導く。新しい形態のスポーツ教室を開催する(新規水泳教室ワンポイントレッスン)・スポーツ推進委員による新種目講習会を行う</p>
	②スポーツ施設の充実と有効利用	<p>安全で快適にスポーツ施設が利用できるよう、スポーツ振興くじ助成事業を利用して老朽施設の改修や施設整備を検討します。</p> <p>また、施設の運営体制の充実をはかることにより、円滑で有効に施設が利用できるよう努めます。</p>
	③スポーツ団体の充実とリーダーの育成	<p>・体育協会やスポーツ少年団での研修を開催し、指導現場に必要な情報を配信し、指導者、競技団体リーダー等の資質向上を目指す。</p> <p>・市スポーツ推進委員に県生涯スポーツ指導員資格を取得させ、スポーツ指導員の資質向上を目指す。</p>